

くしはらふるさと祭 第二回俳句大会 入選作品 「一般の部」

平成30年11月18日 岐阜県恵那市串原コミュニティセンター

北は山形県、南は佐賀県まで、日本全国から1290人2805句の応募がありました。内訳は、こどもの部1141人2396句、一般の部149人409句です。厳正な審査の結果、入賞は次のとおり決定しました。

◎最優秀賞

あかぎれを隠せば母も隠しけり 大野房子 (大垣市)

◎優秀賞

草紅葉ふる里すでにダムの底 名和永山 (大垣市)

地歌舞伎を車椅子の子も演じきる 安藤甲子 (串原)

◎特選賞

夕焼けを父と見ていた肩車 古賀由美子 (佐賀県)

校章は変はらぬままや錦蔦 鈴木美江子 (大垣市)

笛太鼓中山の森おどりだす 大島幸代 (串原)

露天風呂月が見ている恥ずかしさ 薮下光郎 (串原)

○ふるさとくしはら賞

日焼けの子いたずら盛りたべ盛り

ふるさとの五右衛門風呂や豊の秋

貝田ひでを (熊本県)

湯本康二 (茨城県)

秋日濃し次々回り打つ太鼓

村歌舞伎恵那の訛りで見栄を切る

堀江美州 (岐阜市)

度会克男 (千葉県)

塞の神栗落ちてくるおちてくる

郭公や父は朝から山の畑

二見登紀 (大垣市)

石川 昇 (東京都)

峡冷えて窓を曇らす下校バス

蜂の巣をつつくがごとき祭りかな

林 汀園 (大垣市)

西川名乃子 (東京都)

一つずつテントをあげて運動会

弁当にぎっしり詰める栗ごはん

加藤寿志 (大垣市)

岩井壯介 (奈良県)

泣かされしことも思ひ出赤まんま

ばあちゃんのクスリのこりて里の秋

田中紫香 (養老町)

伊井 真 (愛媛県)

◎団体奨励賞 (そろって応募し成績が優秀であった団体)

和句会 砂っこ俳句会 やすらぎ俳句会 府中紅椿句会 串原俳句教室 串原小中学校職員会

○入選

恋すれば風に見上ぐや月の船

坂井 傑 (埼玉県)

初山や泣いたわが子も母になり

横手友江 (埼玉県)

わんぱくを着物で隠す村歌舞伎

山田祐美 (埼玉県)

ふるさとを遠くに生きて花芷

関戸信治 (東京都)

へぼまつりはんぶんこする五平餅

須山恵美 (神奈川県)

茅葺の農家の屋根の秋入日

中川雄策 (神奈川県)

亡き父の思い出を着るちゃんちゃんこ

宮島善英 (長野県)

童心に悪戯をする猫じやらし

幅 茂 (愛知県)

開け方にコツ要る木戸や蟬の殻

山元洋子 (奈良県)

山桜見れば初恋思い出す

馬場和義 (大阪府)

夏帽子被りて父母の揃う駅

井内雅仁 (大阪府)

さといものおいしく煮える母の家

角森玲子 (島根県)

○佳作

紅燃える奥矢作湖に糸を垂れ

梶浦公靖 (東京都)

秋空に中山太鼓地に響く

山田和彦 (愛知県)

山若葉水浴浴と奥矢作

杉山洋子 (愛知県)

故郷や笹百合揺れし立ち姿

福濱保典 (三重県)

へぼまつり勇気を出せば美味だった

松本ひろみ (大阪府)

人恋し秋の夕暮れ村かぶき

山本睦美 (広島県)

冷えきったからだにしみるくしはら湯

恩田政明 (山梨県)

蒟蒻を掘ればくしはらへぼ祭り

湯田英明 (笠松町)

へぼ探し右往左往と山の中

高橋良邦 (大垣市)

捨てし里廃れし屋号草の絮

小野智輔 (大分県)

ふるさとで柿をつるして母の顔

長野和寿 (大分県)

矢作湖やたぐふ虚空の星月夜

鈴木小百合 (岐阜市)

罌雲風が吹けども動かざる

早崎桂子 (大垣市)

朝焼けの沼一面に浮寝鳥

菅谷美樹 (大垣市)

色褪せたままに吊るされ秋簾

岡本艶子 (大垣市)

短夜や四人旅して四人部屋

藤野幸子 (大垣市)

罌雲川面に浮かべ投網打つ

大橋真由美 (大垣市)

二人分汗をかきたる妊婦かな

棚橋美保 (大垣市)

マツタケを真ん中に置き炉端焼

高木恵理 (大垣市)

みのこうちつけて子供がボール追ふ

児玉朝子 (大垣市)

切りすぎた前髪隠す夏帽子

富田泰仁 (安八町)

くしはらの七つの瀧や鳶紅葉

片山洋子 (大垣市)

ふるさとほかれて寂しい秋の月

寺澤 弘 (大垣市)

菊枯れて威厳残すや庭の隅

種田美弥子 (大垣市)

鶏頭や永永とこの墓地に咲き

成瀬岳志 (大垣市)

短夜や犬と添ひ寝の枕元

田中勝美 (大垣市)

伐採の山肌淋し今日の月

磯部妙子 (垂井町)

じいと鳴き命終へたる蟬ひとつ

衣斐知恵子 (垂井町)

薯蒸して子を待つ母を偲ひけり

岩田恭子 (垂井町)

百合の花年月重ね今咲けり

香田明彦 (揖斐川町)

戸をあけて我より先にきりぎりす

国枝一子 (垂井町)

泡吐いて客を迎へる金魚かな

高木美那美 (垂井町)

殺生をするなの教へ秋彼岸

岩田 透 (垂井町)

カモシカにささゆりの湯が覗かれる

安藤さゆり (瑞浪市)

とりどりの法被で結ぶ祭の輪

大島奈津子 (串原)

秋晴れや空に響けと打つ太鼓

大島啓子 (串原)

「幸呼」の名なづけし滝のも女じかな

三宅 明 (串原)

教え子の手紙に浮かぶ冬景色

清水寛人 (串原)

馬肥ゆるふるさとへ向け切手貼る

小川聡美 (串原)

和太鼓の連打が響く紅葉山

藤井志保 (串原)

勢揃ひ競つてつつく鍋料理

渡邊江梨香 (串原)

抱きしめてもう離さない羽根布団

西脇明宏 (串原)

霜月に村で生まれて古希迎え

太田陽子 (串原)

秋深し乙女の祈り弾くバーバ

三宅弥生 (串原)

風に乗りくしはら太鼓の音聞こゆ

三宅禮子 (串原)

穂の中で子供の声に顔を上げ

江口忠夫 (串原)

長雨と猛暑に耐へて照る蜻蛉

市川初枝 (串原)

年かさね思ひはめぐる大銀杏

水野宏也 (串原)

風がふきいちようひらひら足元に

安藤真由美 (串原)

村歌舞伎今年はおひねり投げる番

酒井英彦 (串原)

父が剥く柿を家族で頬張って

佐々木遥佳 (串原)